

3・11から

安全網編①

指標つくり 尊厳守る

貧困や紛争問題などに
取り組む国連大使の
役目を終え、昨年夏に
日本に帰りました。外
交官として、人間の命
や生活、尊厳を守る
「人間の安全保障」を
ライフワークとしてき
て、東南アジア、アフ



前国連大使・ 高須幸雄さん

たかす・ゆきお 1946年生まれ。東京大学法学部中退、69年外務省入省。92年在インドネシア日本大使館公使などを経て2007年から国連大使。10年に退任後、NPO「人間の安全保障」フォーラム理事長として、人権擁護の確立に尽力している。

「人間の安全保障」のイメージ



リ力などの途上国支援を行ってきました。大
使退任にあたっては潘
基文国連事務総長から
「人間の安全保障の考
えを一つにまとめて世
界共通の理解にしてほ
う」という問題もありま
したね。途上国ではな
く、日本にこそ支援が
必要だ。そう思ってい
る時、三月十一日を迎
えました。

本も読めない。人は衣
食住だけではだめで
す。希望や、生きがい
をどこに見いだすか。
地は、仮設住宅で寒さ
をしのぎ、安全に暮ら
す最低限の生活はでき
るようになります。

私たちは読んでほしい本
を贈り、学びや遊びの
場を提供する活動をし
ています。
NPOの活動は公平
性の面で限界がある。
私たちの活動も得意分
野が限られているのは
認めます。しかし、国
や行政、NPOが同じ
ビジョンを持って、そ
れぞれに得意なことを
取り組むことが大事で
す。例えば人間の尊厳
を実現する思いは、共
有できるはずですよ。
震災後の日本にこそ、
人間の尊厳が守ら

問に就任しました。
久しぶりに日本で暮
らすようになり、がく
ぜんとなりました。格差
社会、孤独死、児童貧
困…。死んだ後に長
年、年金が払われてい
る。子どもはかもし
れな

避難所へボランティア
アに入って再び驚きま
残念ながら福島は、
今でも足りません。
国の危機管理はなっ
てないことが露呈し
安全「保障」フォーラム
は、宮城県気仙沼市、
南三陸町などの子ども

これは人権問題です。
しかし、人間の尊厳は
いですか。それを補い
尊厳を大事にするのが
NPOの活動です。私
たちのNPO「人間の
安全保障」フォーラム
は、宮城県気仙沼市、
南三陸町などの子ども

れているかを測る指標
が必要だと思います。
一年くらいかけて、そ
れを指標化したい。
命、生活、尊厳の三つ
の要素を満たす「人間
の安全保障インデック
ス」です。被災地のイ
ンデックスには追加の
項目が必要でしょう。
被災地に貧困を生ま
ないことは大事なこ
です。新たな貧困を生
み出したら、全国のほ
かの地域で過疎や少子
高齢化、介護や雇用の
問題が解決できるはず
がありません。
真の平和は、紛争や
戦争がないことではあ
りません。それでは消
極的な平和です。全て
の人の命、生活、尊厳が
確保されてこそ、積極
的な平和といえます。
「3・11」を体験した
日本で、全ての人があ
問らしさを取り戻すこ
と。これは世界へのメ
ッセージにもなるはず
です。(聞き手・石川
智規、写真・坪真一)